

ガリ版報告書

第 12 号

広島県議会
自民議連

み よし りょう じ
三 好 良 治



ごあいさつ

早いもので、4期15年目を迎えていただきました。ご支持ご指導いただきてきました皆様に心より感謝申し上げます。県政においては、湯崎知事に代わり、初の女性知事となる横田美香さんが新たに知事に就任されました。新知事のもと、引き続き精一杯議論を交わしていきたいと思います。

米価をはじめとする物価高対策、人口流出と人手不足対策、医療介護体制の確保、インフラの維持、温暖化対策、詐欺事件の急増、外国人との共生など、県政を取り巻く課題は、まさに山積しています。これらの課題に正面から取り組み、一つ一つ具体的な解決策を導き出せるよう、引き続き、皆様の声を捻じ曲げず県政へ届け、誠心誠意努力してまいります。どうか引き続きのご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



自民党広島県連・未来創造局長として

備後地域振興協議会幹事長として

政治に関心を持ち、未来を創造したいと願う若き有志たちと一緒に、「未来塾」を開催しています。政治家や各行政幹部などを招いての講義や、党本部での中央研修会など、精力的に活動しています。まさに、現場から、政治を立て直して行きます!

備後地域の国会議員、県議会議員、各市町長・議会、経済界、港湾関係者、道路関係者でつくる協議会です。備後地域の今後のインフラ整備や産業活性化に向けた大きな方針を話し合い、決議をして、県や国へ要望活動を行っています。現在、その幹事長を務めさせていただいており、様々な調整をする中で、大変勉強させてもらっています。

「広島県手話言語条例」と「広島県障害者アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進条例」が成立しました。

福山市ろうあ連盟顧問、福山市難聴児親の会顧問として、長年取り組んできた条例がいよいよ成立しました。聴覚障害をもつ方々だけでなく、全ての県民が心一つに共生社会を築き上げていく歴史的な一步になったと確信しています。

＜本会議での質問と要望＞

・災害時の情報保障

災害時に、視聴覚障害者が正確な情報を得られず命が危険にさらされることがないよう、情報伝達や避難所での意思疎通体制の整備が急務。

・教育と就労の機会均等

手話を必要とする子どもたちが乳幼児期から手話を学び、コミュニケーションの芽を育む環境整備。さらに学校や職場で、支援員や機器が当たり前に導入される社会の実現を求める。

・現場負担の軽減と持続可能性

「合理的配慮」の範囲や費用負担を明確にし、学校・企業・行政など現場が迷わず取り組める仕組みをつくることが大切。

＜知事答弁＞

・災害時はデジタル技術を活用した多様な伝達手段を推進し、避難所での情報提供や支援者派遣を徹底する。

・教育や就労では、乳幼児期から親子で手話を学べる場の整備、学校や企業への支援員配置、情報機器の貸し出し強化を進める。

・職員や事業者が合理的配慮に迷わないよう、事例収集・発信や相談窓口の整備を行い、負担軽減を図る。

・関係団体や事業者と丁寧に意見交換し、条例に基づく施策を総合的に推進する



松永湾の再整備を提案しています

地元・松永湾は、かつて木材貯木場として栄えましたが、今後のビジョンが示されていません。そこで、深刻化する牡蠣殻処理問題の解決策も含め、松永湾を「ブルーカーボンと循環型海づくりの拠点」として再整備することを提案しています。

＜本会議での質問と要望＞

松永湾には可能性が折り重なっている。岸壁の背後地にヤードを整備し、例えば、牡蠣殻を鉄鋼スラグなどと混合し漁礁や基盤材として設置することで藻場を造成し、二酸化炭素吸収を「J-Blueクレジット」として取引し、維持費に充てる仕組みが取れるのではないか。さらに一部を埋め立て、港湾機能を活かしたヨットパークや海釣り公園、潮干狩りの体験の場など「海の遊びの拠点」、またPark-PFIも活用し、飲食や学習施設を整備できれば、地域の賑わいと環境改善を両立させることができるのではないか。是非明確なビジョンを示していただきたい。



Google Earth より



＜知事答弁＞

「牡蠣殻の水質改善効果や漁場造成効果も確認されている。今後、港湾利用者や地元関係者の意見を伺いながら、地域発展に資するあり方を具体的に検討する」と前向きな答弁を得ました。

9月本会議質問内容

●若者に選ばれる企業とゼブラ企業群形成

【質問要約】

若い世代は、自分らしさや社会貢献を重視している。広島には平和ブランドやものづくりの技術など、地域に根ざした企業モデルを育てる資源がある。ここで注目されるのが「ゼブラ企業」であり、これは「白黒の縞模様のように、社会課題の解決と持続的成長を両立させる企業」を指す。ゼブラ企業群の形成が人口流出対策の核心になり得るのではないか。

【答弁要約】

若者が企業選択で重視するのは成長性や待遇だけでなく、社会課題解決に貢献する姿勢である。県はイノベーション支援や伴走型プログラムを通じ、社会課題を起点とする新たなビジネスを後押しし、ゼブラ企業の創出・育成に力を入れていく。

●国の交付金獲得の方針

【質問要約】

国の補助制度は複雑で、現場担当者が過剰に県費負担を懸念するため申請を見送る例もある。これは、県民にとって大きな機会損失と言わざるを得ない。交付金の取りこぼしを防ぐため、全庁横断の方針や目標設定が必要あり、議会も事前段階から関与すべきである。

【答弁要約】

国の交付金等の獲得による効果的な施策展開にも取り組む。今後は、充當状況だけでなく活用状況についても議会や県民へ分かりやすく示すことを検討する。

●最低賃金制度の歪み

【質問要約】

最低賃金は「生計費・賃金・支払能力」の3要素で決定されてきたが、都市と地方の構造変化に対応できていない。国際的に見れば東京の水準は本来2700円以上と試算されるにも関わらず、「安く人を雇える東京」という構造が温存され、都市集中を助長してきた一面もあるのではないか。制度の再設計を求め、健全な地方振興に繋げる必要である。

【答弁要約】

最低賃金は中央審議会と地方審議会の二段階で決定され、全国整合性を確保している。今年度は賃上げを成長戦略と位置づけ、地域間格差の是正にも配慮された。制度の在り方は国で議論されており、県としてはその動向を注視し、中小企業の価格転嫁や生産性向上を支援していく。



●猛暑対策

【質問要約】

熱中症被害が最多となった現状を踏まえ、猛暑は「政治課題」とあると位置づけるべきである。暑さ対策に終始するのではなく、各責任者が躊躇なく対策を実行できるよう政治的に補完することが重要である。部活動やイベントの中止ルールを事前に明文化すること、公共工事で暑さ対策経費を仕様書段階から計上する仕組みなどを導入する必要がある。

【答弁要約】

特別警戒アラート発表時の対応体制を整備している。当面は国の指針に基づいて判断するが、明確な基準の必要性は認識している。ケーリングシェルター情報の提供や、公共工事での暑さ対策費用の精算方法改善を進めている。今後は「暑さ条項」の仕様書掲載も検討する。

●広島空港の国際空港化

【質問要約】

広島空港の国際線を22路線に拡充する将来像を踏まえ、観光客や外国人労働者に選ばれる県となるため、国際路線の誘致を加速すべきである。

【答弁要約】

海外航空会社へのエアポートセールスを重視し、人口規模や観光資源などの強みを説明している。新規就航を促すため経費の一部支援も実施。コロナ前を上回る復便・新規就航が進んでおり、今後もHIAPと連携し路線拡充と受入体制の強化を図る。

●これからの広島県の姿

【質問要約】

16年間県政を担った知事に対し、今後の広島が目指すべき課題と展望を問う。

【答弁要約】

格差拡大や人口減少への対応が重要課題であり、特に女性の正規雇用促進(L字カーブ解消)と生産性向上が鍵である。AIやスタートアップ支援などで強固なエコシステムを形成し、挑戦心を涵養することが必要。新しい知事に舵取りを託すが、残り任期も全力で取り組む。

YouTubeでも配信しています。
是非ご覧ください。



湯崎知事お疲れ様でした!

湯崎知事とは、15年間のお付き合いとなりました。知事は「人口減少」や、「度重なる自然災害」、「新型コロナウイルス感染症のパンデミック」や、「国際情勢の不安定化」など、県政にとって、極めて厳しい局面が続いた時代にあっても、広島県政を力強くリードしてきてくださいました。その成果は、広島の将来を支える「確かな礎」として、実を結んできたものと思います。本当にお疲れ様でした。



横田美香新知事と

人口流出の具体的対策として 奨学金返済支援制度がスタートしました

県では、深刻化する人口流出や人手不足にどう対応するか、これまで議論を重ねてきました。

その結果、今年度から「奨学金返済支援制度」をリニューアルし、拡充することができました。

この制度は、県内企業が従業員の奨学金返済を支援した場合に、その費用を県が補助する仕組みです。

・補助率は最大3/4(75%)

・補助対象期間は最長3年間

・補助額には上限なし(支援計画の範囲内で全額対象)

・対象となるのは、令和7年3月以降に採用された、奨学金返済を抱える若手社員企業にとっては採用や人材定着の大きな後押しになり、若者にとっては返済負担が大幅に軽減される仕組みです。

ぜひこの制度を活用し、多くの若者が広島で、そして福山で働き続けてくれることを願っています。



3令和7年度の事業内容

事業内容	新規・継続	工事	用地補償	測試
	事業内容	継続	新野島橋架替工事	用地買収・移転補償



Google Earthより

県道鞆松永線・慶應浜工区バイパス工事がスタートしました

長年取り組んで来たバイパス工事が開始されました。前任者の中津信義先生の時代から、地元の大きな懸案事項でしたので、ホツとしています。しかし、工事はまさにこれからです。取り付け道、安全対策、農業従事者の方々との調整など、まだまだ課題が山積みです。引き続きスムーズな工事進行のため努力していきたいと思います。

事業内容 道路改良(拡幅・バイパス)

所在地 広島県福山市金江町～柳津町

延長 L=1,240m

道路規格 4種1級(設計速度50 km/h)

道路幅員 車道 3.25m × 4 W=22.0m

全体事業費 約30億円

令和7年度事業費 97百万円



<連絡先>

〒729-0105

福山市南松永町1-10-2 グランパス1F

三好良治後援会事務所

電話 084-933-0580

FAX 084-933-4075

【略歴】1972年生まれ53歳

1988年	神辺町立神辺東中学校	卒業
1991年	岡山県立井原高等学校	卒業
1997年	愛媛大学 法文学部 法学科	卒業
1997年	元内閣総理大臣 宮澤喜一秘書	
2000年	衆議院議員 宮澤洋一 秘書	
2010年	参議院議員 宮澤洋一 秘書	
2011年	広島県議会議員初当選(現在4期)	

【主な役職】

文教委員会委員長

警察労働委員会委員長

建設委員会委員長

産業競争力強化対策特別委員会委員長

国際競争力強化対策特別委員会委員長

予算特別委員会副委員長

自民党広島県連青年局長

自民党広島県連遊説局長

自民党広島県連未来創造局長

特定社会保険労務士